

発表タイトル：箕面川の生物調査

発表者：\*川端 浩介、手塚 巽仁、橘田 壮真、槌谷 沙綺、川端 青（箕面学園高等学校 自然科学部）

概要：箕面川は、本校東を流れる淀川水系に属する一級河川である。1967年の北摂豪雨では箕面川が氾濫し、周囲に多大な被害を及ぼした。これをきっかけに治水のため、1972年に箕面川ダムや堰の建設が開始された。建設に伴い箕面川の散発的な調査は行われたが、1977年以降は魚類に対する調査文献が見当たらず、魚類相は不明なままである。そのため当校では（あるいは発表者らは）2019年より、箕面川の魚類相を把握するために調査を実施している。同定する魚類に関しては各調査点で胴長靴を着用し、たも網、もんどりを用いて採集した。またBOD調査キット(共立理化学研究所製)を用いて、各調査点の水質調査も併せて実施した。調査の結果、魚類2目4科4種が確認できた。過去文献と比較すると、上流部の魚類相は保たれているが、下流部では種数が11種減少していた。またBOD値は全ての地点で0mg/L(ppm)であった。下流部の魚種数減少の原因は河川の水質悪化ではなく、ダムや堰などの物理的な障害であると考えられる。また最下流部を衛星写真で確認すると、瀬枯れがあり、猪名川からの魚類の流入に支障をきたしている可能性がある。今後は、調査範囲を広げ、より詳細な箕面川の魚類相データ収集を行なっていきたい。